

慢性骨髄性白血病について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
慢性骨髄性白血病	<p>◇症状</p> <p>■慢性骨髄性白血病とは骨髄中で白血球が過度に多くつくられる病気■</p> <p>慢性骨髄性白血病（CML または慢性顆粒球性白血病とも呼ばれます）は緩徐に進行する血液と骨髄の疾患で、通常、中年期以降に生じ、小児に生じることは稀。</p> <p>CML の体内ではあまりに過度の血液幹細胞に顆粒球と呼ばれる白血球のタイプをつくるように伝えるため、骨髄幹細胞のいくつかは成熟白血球となることができない。これらは白血病細胞とも呼ばれる。血液と骨髄中では正常な白血球、赤血球、血小板の余地が少なくなり、白血病細胞が押し出される。このため感染、貧血、易出血性の生じる場合がある。</p> <p>■慢性骨髄性白血病を疑う症状としては疲労感、寝汗、発熱がある■</p> <p>これらの症状は CML によってみられることがある。他の状況によっても同じ症状がみられる。以下の症状がひとつでもみられた際には医師の診察を勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極度の疲労感。 ・原因不明の体重減少。 ・寝汗。 ・発熱。 ・左側肋骨より下の疼痛または膨満感。 <p>時に CML は全く症状を示さないことがある。</p> <p>■ほとんどの CML 患者さんにフィラデルフィア染色体と呼ばれる遺伝子突然変異（変化）が認められる■</p> <p>体内の細胞はすべて、細胞がどのようにみえ、作用するかを決める DNA（遺伝物質）を含んでいる。DNA は染色体内に含まれている。CML では、ひとつの染色体における DNA の一部が別の染色体に移動している。この変化は“フィラデルフィア染色体”と呼ばれる。この結果、骨髄中ではチロシンキナーゼと呼ばれる酵素の働きが高まり、白血球（顆粒球または芽球）となる幹細胞が過度につくられる。</p> <p>フィラデルフィア染色体は親から子へと受け継がれない。</p> <p style="text-align: center;">（財団法人国際医学情報センターより）</p>	<p>リボンの会 http://fukuoka.cool.ne.jp/ribbonokai/</p>